



『エネルギー・環境問題解決の鍵を握る 超伝導技術の進展』

世界の人口増大に加え、非OECD諸国の急速な経済発展とも相まって、化石燃料消費に伴うCO₂排出量の増大は、地球環境に深刻な影響を及ぼしている事が広く認識されつつある。エネルギー問題と環境問題、さらに資源問題も加えた上で、持続可能な経済発展を実現する技術開発は、人類共通の危急の課題といえる。超伝導材料は、損失をほとんど無視できる状態で大電流を通電することが可能であり、小型軽量、省エネルギーを実現する革新的機器や高磁界の発生とその応用など、従来技術の壁を破る技術として実用化が期待されている。また、巨視的量子効果を利用した高感度センシングは、環境モニタリングの手法としても不可欠なものとなりつつある。本研究会では、エネルギー・環境分野で期待される超伝導応用と、それを実現するための材料開発について、先導的成果を挙げられている方々にご講演いただくと共に、エネルギー・環境問題解決を目指した超伝導技術開発の今後の展開について、議論することを目的とする。

■日時：2008年12月19日（金）10:00～17:00

■場所：財団法人 国際超電導産業技術研究センター/超電導工学研究所 大会議室

（東京都江東区東雲 1-10-13 地図 <http://www.istec.or.jp/Operation/map-J.html>）

プログラム	
10:00-10:05	開会挨拶 藤巻 朗(名大)
10:05-11:05	GENESIS 計画と超伝導電力ケーブル 畑 良輔、磯嶋 茂樹(住友電工)
11:05-12:05	RE123 高温超伝導線材の開発と電力機器応用 塩原 融、和泉 輝郎、山田 穰、藤原 昇(ISTEC-SRL)
12:05-13:05 昼食・休憩	
13:05-13:35	超伝導線材のナノ組織制御による実用性能向上 松本 要(九工大)
13:35-14:05	MgB ₂ 線材の開発 熊倉 浩明(物材機構)
14:05-14:35	新超伝導材料創成の指針 下山 淳一(東大)
14:35-15:05	希土類酸化物の環境材料としての可能性:熱電材料・超伝導材料 吉田 隆(名大)
15:05-15:25 休憩	
15:25-16:10	超伝導磁気分離技術による環境改善 西嶋 茂宏(阪大)
16:10-16:55	ミリ波・サブミリ波を用いた地球環境計測 菊池 健一(産総研)
16:55-17:00	閉会挨拶 下山 淳一(東大)

参加費（当日受付・消費税込）：分科会会員 2,000 円、応用物理学会会員 3,000 円、
協賛会員 3,000 円、非会員 4,000 円、学生 1,000 円

問合せ先：銭谷 勇磁（パナソニック） TEL:0774-98-2566 e-mail: zenitani.yuji@jp.panasonic.com

木須 隆暢（九州大） TEL:092-802-3686 e-mail: kiss@sc.kyushu-u.ac.jp

田中 康資（産総研） TEL:029-861-5720 e-mail: y.tanaka@aist.go.jp

高野 義彦（物材機構） TEL:029-859-2842 e-mail: TAKANO.Yoshihiko@nims.go.jp

明連 広昭（埼玉大） TEL:048-858-3763 e-mail: myoren@super.ees.saitama-u.ac.jp